

令和6年度第4回広島市教科用図書採択審議会会議録

署名者 小田 啓史

会議録調整者 藤本 充泰

令和6年7月25日午後1時00分 令和6年度第4回教科用図書採択審議会を広島市教育センター2階第3研修室において開催した。

1 開会及び閉会に関する事項

開会 午後1時00分
閉会 午後4時45分

2 出席委員

会長	小田 啓史	副会長	佐藤 真実子
委員	佐々木 英三	委員	河野 緑
委員	東 歸 達子	委員	佐々木 功一
委員	藤 村 渉	委員	宮崎 将三
委員	大 出 愛	委員	荏 隈 敏之
委員	中村 謙太郎	(委員	中 川 縁 欠席)
委員	沖野 由佳	委員	今野 藍子
委員	船谷 季弘	委員	尼子 一高
委員	長谷川 明子	委員	田中 輝雄
委員	山田 浩之		

3 事務局の出席者

長屋 吉輝 指導第二課長
与座 淳 指導第二課長補佐
藤本 充泰 指導第二課指導主事
宗本 千鶴 指導第二課指導主事
石原 剛 指導第二課指導主事
山中 晴詞 指導第二課指導主事
松田 一大 指導第二課指導主事
牧野 誉 指導第二課指導主事
波止元 貴士 指導第二課指導主事

4 議事日程

- (1) 開会
- (2) 採択審議会 会長挨拶
- (3) 中学校用教科用図書(国語、書写、理科、英語、道徳)に係る調査・研究の結果について(報告)
- (4) 教育委員会への答申について(審議)
- (5) 採択審議会 会長挨拶
- (6) 指導第二課長挨拶
- (7) 閉会

5 議事の概要

○ 藤本指導主事

本日の進行役をさせていただき指導第二課の藤本です。開会に先立ちまして、一言申し上げます。現在、本採択審議会の皆様、19名の内、17名の出席をいただいております。「3分の2以上の出席」であることから、本採択審議会は成立することになります。なお、委員の皆様の内、中川委員から、欠席届が出されておりますのでお知らせしておきます。また、山田委員は業務の関係で遅れてこられると連絡を受けております。

本日お配りしております、資料について確認させていただきます。なお、資料につきましては、会議終了後、回収させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、令和6年度第4回広島市教科用図書採択審議会を開催いたします。

議事について、会長・副会長の方で進めていただきたいと思います。小田会長、佐藤副会長、よろしくお願いいたします。

○ 小田会長

それではよろしくお願いいたします。本日は、国語、書写、理科、英語、道徳の4教科5種目について御審議いただくことになっています。たくさんの教科書を審議することになりますが、限られた時間の中で審議が適正に進むよう努めてまいりますので、委員の皆様には、様々な観点から幅広く御意見をいただき、充実した会となりますよう、御協力をよろしくお願いいたします。

配布資料の1の1ページにありますとおり、進めていきたいと思っております。

国語から1種目ごとに教科書の調査・研究報告を調査員の代表からしていただきます。前回と同じように、教科書を手に取り、資料2と合わせて目を通しながら、報告をお聞きしたいと思います。報告後、委員の皆様から質問がございましたら、出していただき、報告について確認した後、資料に基づいて審議してまいります。

それでは、「審議」に入りたいと思っております。

(国語の調査員代表者 八谷校長 入室)

○ 小田会長

それでは、国語科の調査員から国語の教科書の調査・研究について、報告をお願いします。

(調査代表説明)

○ 小田会長

ありがとうございました。今の報告に対して質問はございませんでしょうか。

(質問なし)

○ 小田会長

それではこの報告書にまとめられている内容について、これでよろしいですか。はい、ありがとうございます。それでは調査代表の先生、ありがとうございました。ご退出ください。

(調査代表退室)

○ 小田会長

それでは前回の審議と同様に、本市の実態や生徒の状況に即した教科書としてふさわしいものはどれかを審議し、よりふさわしい、ふさわしい教科書を決めていきたいと思います。

審議に当たっては、本市の実態や生徒の状況に即してまとめられた報告書を参考に全ての教科書の特徴を比較して、本市の生徒の課題に対応する特徴がある教科書を決めます。委員の皆様のご意見がまとまらない場合は挙手でいきたいと思います。

それでは、御意見のある方、意見を出してください。それでは、河野委員、いかがですか。

○ 河野委員

はい。どの教科においても、やはり国語科の担う役割はすごく大きいと痛感しています。ここまで他の教科の研究の観点、生徒の実態を見ても、読解力、表現力を要求されるので、それらを網羅している教科書を選ばないといけないと思っています。

私が気になったのは、光村図書出版の語彙ブックです。生徒が表現する際に、こういう語彙を使用してはどうかというような内容が書いてあるのを見ると、それを使用してみようとか、参考にできるなと思いました。また、光村図書出版は、とじ込みに書いてある思考の仕方、話し合いの仕方をまとめて書いてくれているというところが非常にいいなと思います。

また、観点の3、4の内容を聞いて三省堂もいいなと思いました。

東京書籍は、教材の後の手引きの書き方がすごく分かりやすいなと思っています。手引があるやり方は、すごく分かりやすいと思ったので東京書籍もいいなと思っています。

教育出版の「学びナビ」もよいと思いますが、読むと1年生にとっては内容が難しいと感じ、1年生が理解しながら教材に進むことができるのかが気になりました。

○ 小田会長

ありがとうございます。その他ご意見のある方はいらっしゃいませんか。

○ 田中委員

私も光村図書出版の語彙ブック、三省堂の巻末の資料の前にある文法のまとめというのが入っていて、三省堂の文法のまとめもいいかなと思っています。

○ 小田会長

他の教科書には、同じ1年生で文法のまとめはありますか。事務局の方で把握しておられたらいかがでしょうか。

○ 石原指導主事

それでは事務局から補足させていただきます。文法についての記述については、文法のまとめという形ではないですが、例えば光村図書でいうと学びを深めるというところでまとめて掲載しているといったところがあります。どの教科書も単元の最後のあたりに文法の入口のような教材が掲載してあって、教科書の最後の方にまとめてある文法事項のページを示しており、詳しくはそちらを見るようになっています。

○ 小田会長

ありがとうございます。すべての教科書の大体1番最後にあるのですね。その他はいかがでしょう。

○ 佐々木（英）委員

本市の生徒の状況をまとめてくださっていますが、国語については、基礎的な知識とか技能が、随分今低くなっているのではないのかなと思って、私自身はすごく危機感を覚えています。文脈に即して漢字を正しく書くとか、あとは語彙の定着とか、できてないなという思いがあります。だから、調査された方々もそこを重視して、知識技能の習得の観点を三つも立てられて、調査をされたと思います。

基礎的な知識技能の定着と思考判断の両方の特徴をそろえているのが光村図書出版だと思います。だから光村図書出版が1番いいなとも思っています。

その次に、東京書籍と三省堂ですが、三省堂の方は、思考判断の部分には面白い特徴があるなとも思います。ただ一方で東京書籍は、そういう部分も補いながら知識技能を補うための特徴が多い。そういうところは、知識技能の習得に特徴を多くそろえた東京書籍が次に来るのではないかと思います。本市の生徒たちの基礎的な知識技能の定着、私はすごく大切だと実感しているので、国語については、東京書籍が、ふさわしいに来るのかなと考えます。

○ 小田会長

ありがとうございます。その他御意見はいかがでしょうか。

○ 佐々木（功）委員

言葉の意味や漢字、物語の下に書いてある部分を注目して見ていました。5ページ、観点1の③で、三省堂、光村図書の特徴として③で挙げられている「走れメロス」のページを4者比べて見ていました。教育出版には読むところの目標とかそういったものが書かれていなくて、私は国語が苦手だったので物語に入るときには、他の三者に書かれているような読むときの視点とか、目標が書かれている方がすごく読みやすくていいなと思いました。その中でも光村図書出版が個人的には読みやすいと思いました。脚注に書かれている、言葉の意味、漢字の部分と、出てくる単語の意味が見やすいなど。三省堂は、国語が苦手な私からすると、言葉を調べていこうという気持ちになる書き方がされているという気がします。スマートフォンが普及して、言葉の意味すらもネットで調べられる時代なので、物語を読むときにきっかけを与えてくれる教科書がいいと思っており、東京書籍と本当に甲乙つけがたいところですが、私は三省堂の方が見やすい部分はあると思います。私は国語が苦手だったので、中学生の視点に近いかなと思って喋っていますが、読みやすさと見やすさというところで、この二者はほとんど横並びだとは思いますが、三省堂がふさわしいだと思います。

○ 小田会長

ありがとうございます。

保護者の目線から、我が子が教科書を使うと考えたときいかがですか。

○ 船谷委員

まず、今回調査していただいた内容を見させていただき、どこの者もよいと感じました。私のことを申しますと、私は本を読むのが好きでして、読むきっかけは、学校で教科書の文章や

図書室の本に出会ったり、興味を持って色々なものを読み漁ったりした経験があり、それがきっかけだったので、授業で興味をひくような、導入の仕方を先生たちに期待しています。すいません、意見になっていないかも知れませんが。

○ 小田会長

ありがとうございます。なかなか差をつけづらいという感じは私もしています。今言われた、読書についてですが、読書活動推進は本市の教育においても大事なポイントではあります。それでは、意見を頂いた中をまとめると、光村図書出版が、よりふさわしい。ふさわしいは、東京書籍を推す意見と、三省堂を推す意見と、見やすさとか、こどもの使いやすさという点では、意見が分かれているようです。みなさんの方で、やっぱりここが良い、こちらの方がふさわしいのではないのかなどの意見はございませんか。

(しばしの間)

○ 小田会長

それでは同じ教材で見比べてみましょう。「走れメロス」が各者にありますので、東京書籍と三省堂を比較してみてもはどうでしょうか。

(一同頷く)

○ 小田会長

それでは少し時間を取ります。

(しばしの間)

○ 小田会長

見比べていただいていたかがでしょうか。

○ 河野委員

よいですか。「走れメロス」の意味を調べさせるところで、東京書籍の方は、類義語を書いていないので自分で調べることが必要になります。例えば「律義」について両方調べるようになっていますが、三省堂は類義語について丁寧に書いてあります。自分で調べるのか、教科書に書いてあるのか、それをどう捉えるかというところだと思います。

○ 小田会長

本市の子どもの課題に即した部分ですね。意見が分かれるところですね。

○ 河野委員

目標の立て方は、三省堂が丁寧だと思います。

○ 小田会長

何か他に御意見ありませんか。

○ 佐々木（英）委員

今の部分に関わって、個人的に思うのは、答えが書いてあるより、自分で調べてみなさいという方が、自分で動いて、自分で調べてみた方がやはり記憶にも残るし、活動としても、先生も指示が出しやすいし、私が国語の先生だったら東京書籍の方がいいかなと思います。

○ 佐藤副会長

よろしいでしょうか。まとめの仕方は三省堂の方が丁寧であるように思います。

○ 石原指導主事

事務局から補足させていただいてよろしいでしょうか。先ほど船谷委員さんから読書に親しめる工夫という意見がございました。東京書籍では199ページ「読書案内」に太宰の別の作品を紹介しています。これに対して三省堂は223ページ「私の本棚」に現代の作家の作品で子どもが親しみやすい「走る」ことに関連した書籍を紹介しており、子どもが読書に親しめるような工夫に各者の違いが見られます。

○ 船谷委員

加えて、三省堂は228ページに「太宰治の世界」で紹介もしていますね。

○ 石原指導主事

教材を扱うときに周辺のところでどのようにトピックするのかというところに各者の違いが表れています。

○ 小田会長

ありがとうございます。まず、光村図書出版をよりふさわしいと決定しようと思いますが、よろしいですか。

（一同頷く）

○ 小田会長

みなさんの同意が得られたようです。それでは、ふさわしいを決めるにあたり、東京書籍と三省堂について、挙手をしてもらいます。少し時間を取ります。

それでは、東京書籍がふさわしいと思われる方は挙手を願います。

（委員挙手）

○ 佐藤副会長

4名です。

○ 小田会長

続いて三省堂がふさわしいと思う方は挙手をお願いします。

（委員挙手）

- 佐藤副会長
11名です。

- 小田会長
ありがとうございました。
三省堂11名、東京書籍4名ということで、三省堂の方がふさわしいとさせていただきま
す。その他、答申として付すべきことがありますか。特にないでしょうか。
それでは、いただいた意見を基に答申を作成して参りますが、その作成については会長、副
会長に一任していただきたいと考えますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

- 小田会長
それでは、国語はこれで終了です。次に進めてまいりたいと思います。

(書写の調査員代表者 八谷校長入室)

- 小田会長
それでは、書写の調査代表から調査・研究について報告をお願いします。

(調査代表説明)

- 小田会長
ありがとうございました。ただいまの報告の内容で、何かご質問等はございますか。
特にないでしょうか。

- 小田会長
調査・研究の報告をありがとうございました。

(調査代表退室)

- 小田会長
それでは、書写の審議に入りたいと思います。意見はいかがでしょうか。

- 河野委員
よろしいでしょうか。光村図書出版の付録が良いと思いました。また、最初に書き方の「ト
ン、スー、トン」とか、点画の種類のところで見やすく書いてあること、動画とタイトルがつ
けられたQRコードがあります。アニメーション、動画、書き方のところなども、動画で、や
ってくれている方が、ただの画像よりも分かりやすいのかなと思います。このようなことか
ら、私は光村図書がふさわしいと思っています。

- 佐藤副会長
動画のことについて言われましたが、もう少し教えてください。

○ 河野委員

巻頭にある姿勢のところでは、三省堂と光村図書出版だけがQRコードのそばに動画と書いてあって、他の者は普通のQRコードになっています。実際に読み取ってみたいとどのような画像、動画なのかわかりません。

○ 小田会長

ここまでの話では、QRコードについてはコンテンツの数は調査の対象になりますが、中身については教科書の採択には影響がないということでしたね。他にご意見はございませんか。

○ 小田会長

各者を見比べてみて工夫されているところはたくさんありますが、差別化されるようなところがありますか。書写をするときのお子さんの様子を想像すると、どれが使いやすいですか。

○ 長谷川委員

使いやすいなのは光村図書出版かなと。ただここが違うからここがいいというのははっきりとは言えません。

○ 小田会長

作品を作る、使うという点では美術と通じるところもあるかと思うのですが、その視点でいかがでしょうか。

○ 大出委員

練習のところについては各者の差はわかりませんが、美術もレタリングなど文字を扱う授業もあるので、光村図書出版さんの90ページにある「全国文字マップ」とか94ページには「文字の使い分け」があります。美術では漫画などを教材として、効果音などに面白い文字が使われているのを明朝体に見たらどのように印象が変わるかといった発問から教科書や新聞に使われる書体、担任の先生が学級通信に使う手書き文字など文字のデザインに注目させる授業があります。光村図書出版はそういった学習と関連付けることが可能なのではないかと感じました。東京書籍も72ページ「身の回りの文字の目的と工夫」などで触れてはいるのですが、光村図書出版さんの方がおもしろいし、わかりやすいかなという気がします。教育出版100ページ、三省堂68ページにも似たような内容がありますが、光村図書出版であると、生徒がやってみようかという気になるのではないかと思います。

○ 小田会長

今、ご意見いただいた箇所は12ページの様式1の「場や目的に応じた表現の効果のところ」に関連しますね。その他御意見はありますか。

○ 田中委員

学習したことを自らの生活に生かす、という観点からすると、各者とも甲乙つけがたいと思いますが、あえてふさわしいものを選ぶとなると三省堂か東京書籍かなという印象は受けません。

○ 山田委員

生徒が主体的に学ぶという観点からみると学び方を丁寧に示すことは大切だと思います。そういう意味では光村図書出版と東京書籍が適切であると思います。各者とも教科書としてはすぐよくできていますが、先ほど申し上げた観点で考えると2者が良いかなと。中でも光村図書出版は丁寧に学び方を示し、しかも身近な題材をたくさん取り上げているので生徒が関心をもって書写の学習に取り組めるのではないかと思います。東京書籍の方も丁寧に書いてあるが、子どもの学びやすさ、という点から行くとやはり光村図書出版がよりふさわしいのでは、という印象を受けます。

○ 小田会長

ふさわしいものを選ぶのが難しいと思っていたのですが、山田委員のお話を伺うと東京書籍がふさわしいのではなからうかとのことですが、他の意見はありませんか。

○ 佐々木（英）委員

書写で学んだことと、自分の生活に生かすということの結びつきができていない生徒が多いと思います。皆さんがおっしゃるように光村図書出版というのはそうやって日常生活とつなげるような工夫を多く特徴がそろっているので、光村図書出版が1番良いのではないかなと思います。それから、ふさわしい者ですが、私は三省堂と思っています。例えば15ページの観点3主体的に学習に取り組む工夫の7つ目の○に、Jポップの歌詞を手書きの文字で示してあり、本当に子どもたちにとっては身近な日常生活の中にあふれるところから、関心を引き出そうとしているなと思いますし、その次のページ、16ページの5つ目の○にあげられている特徴も、例えば毛筆の補助教材の中に、これもJポップの歌詞ですけど、生徒が日常生活や自分の身近にあるものと結びつけやすいような工夫をしている。三省堂が生徒たちにとっても、入り込みやすいのではないのかなという思いがあります。

もう一つ挙げさせてください。調査された特徴とは離れますが、同じ教科の中で、教科書会社が異なるというのは少し違和感があるのかなと思いますから、国語で、光村図書出版をよりふさわしい、三省堂をふさわしいと挙げたということも考慮すると、書写も同じ形で挙げてあげたら良いのではないのかなと思います。

○ 小田会長

ありがとうございます。いろいろな意見を出していただきました。ふさわしいは、東京書籍と三省堂で悩まれると思いますので、それぞれの委員の皆さんの挙手で多数決をとらせていただこうと思いますが、その前に、よりふさわしいは光村図書出版でよろしいでしょうか。

(一同頷く)

○ 小田会長

みなさんの同意が得られました。では、ふさわしい教科書について東京書籍、三省堂どちらかに挙手をお願いします。

東京書籍だと思われる方、挙手をお願いします。

(委員挙手)

- 佐藤副会長
6名です。
- 小田会長
三省堂だと思われる方、挙手をお願いします。

(委員挙手)

- 佐藤副会長
10名です。

- 小田会長
ありがとうございました。東京書籍が6名、三省堂が10名ということで、ふさわしい教科書を三省堂というふうに答申したいと思います。その他、答申として付すべきことがありますか。それでは、いただいた意見を基に答申を作成して参りますが、その作成については会長、副会長に一任していただきたいと考えますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

- 小田会長
それでは、書写はこれで終了です。次に進めてまいりたいと思います。

(理科の調査員代表者 原田校長入室)

- 小田会長
それでは、理科の調査代表から調査・研究について報告をお願いします。

(調査代表説明)

- 小田会長
ありがとうございました。ただいまの報告の内容で、何かご質問等はございますか。
- 佐々木(英)委員
よろしいでしょうか。資料⑥の單元ごとの章立て、各教科書会社の章立ては異なっていますが、章立ての違いが、こどもたちの学びやすさとか学びにくさに影響を与えとか、影響が出ることがありますか。
- 原田調査代表
理科では4領域あります。この編成については、先生方が各授業の組立ての中で、最初に例えば生物から始めて2分野の単元を行い、続いて化学、物理、地学というふうにすることが一般的に多いかと思いますが、例えば2学年物理を4月に行うと乾燥した時期になりますので、静電気の授業がやりやすくなります。このように、先生方が教科書の内容を考えながら編成ができます。

○ 佐々木（英）委員
順番の変更は、先生方の裁量でできるということですね。分かりました。
ありがとうございました。

○ 小田会長
ありがとうございました。その他ご質問はございませんか。報告書の内容について、これでよろしいでしょうか。それでは、調査員の代表の方、ありがとうございました。

（調査員代表者退出）

○ 小田委員
それでは審議に入ります。ご意見をお願いします。

○ 藤村委員
情報量や探究をする過程を重視する点で、やはり啓林館が群を抜いていると感じます。ウェブコンテンツが充実しており、QRコードから解説動画や問題演習にアクセスできるなど家庭でも活用しながら学習ができる点はとても良いと思います。また、動画や問題演習はどの生徒も平等にみることができるとも本当に良いと思います。さらに、グラフ作成については、失敗例を載せ、そこから考えさせる活動を設定していること、単元の始めと終わりで自分の考えがどう変わったか振り返る活動もよい活動だと思います。

前後して申し訳ありませんが、学校図書も失敗例から学ぶ取組が仕組みされていてよいと感じましたが、広島に触れていることも大事だと感じていて、東京書籍、大日本図書、教育出版、啓林館は触れているのに、学校図書は触れていないのが残念でした。

広島に関していえば、東京書籍が、広島市防災ポータルに注目しているのはとても良いと思います。

○ 河野委員
私は一番理科が苦手なので調査代表の言葉に注目していました。「中でも」、「特に」という言葉が使われた回数を数えておりました。そうしますと、当啓林館が15回、東京書籍が7回、教育出版が4回、学校図書が3回、大日本図書が2回でした。この回数から、私は見えない事例や特出すべきところが特徴としてあるのかなと考えました。少し違う視点からではありますが、こうしたことから啓林館がよりふさわしい、東京書籍がふさわしいと考えました。

○ 小田委員
ありがとうございました。その他ございますか。

○ 山田委員
理科の教科書は、知識や技能を身に付けさせることに重点を置いているように感じます。その中で、東京書籍は、社会科と同じように、チャート式で非常にわかりやすくなっていると思います。それと同じように学校図書もわかりやすくなっているのですが、内容が浅いように感じました。では、このことから東京書籍が良いかということ、これは一つの考え方としてですが、理科では深く学ぶことを重視しなければならないと思っています。そう考えると、啓林館がかなり優れていると思います。深く、しかも子どもたちが主体的に学習に学べる工夫もあり

ます。広島市の生徒の状況を考えると、知識を身に付けて、観察実験の結果を分析・解釈できるよう、主体的に学ぶ力をつけるには、わかりやすく、なおかつ内容を深く学べる啓林館が良いと考えます。以上のことから、よりふさわしいは啓林館、ふさわしいは東京書籍と考えています。

○ 小田委員

保護者の方ご意見はいかがでしょうか。

○ 船谷委員

私は啓林館がいいです。

○ 小田委員

その他いかがでしょうか。

○ 佐々木（英）委員

子どもたちの課題を見ると、知識・技能の定着の部分と思考・判断の育成の部分、この二つがやっぱり大切ではないだろうかと思いながら見ておりました。そこで、観点の1と2の部分を特に注意深く見ていましたが、やはり教科書の特徴の中身を見てみると、啓林館と東京書籍が知識・技能の定着について丁寧ですし、思考・判断の部分も、それを促すような工夫がよくされているなどと思います。

特に啓林館は、知識・技能の定着にかける情熱というか、繰り返し知識・技能の定着をするための工夫があります。また、実験の安全について非常にページ数をさいており、そこに付随する説明する等、やはり非常に素晴らしいと思って、私も啓林館が1番、その次が東京書籍、と思います。

○ 小田会長

ありがとうございました。先ほどからみなさんの話しも非常に多く見受けられます。新興出版社啓林館がよりふさわしい、そして、東京書籍がふさわしい教科書で、意見をまとめたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（一同頷く）

○ 小田会長

ありがとうございました。その他、答申として付すべきことがありますか。

（異議なし）

それでは、いただいた意見を基に答申を作成して参りますが、その作成については会長、副会長に一任していただきたいと考えますが、よろしいでしょうか。

（異議なし）

- 小田会長
それでは、理科はこれで終了です。次に進めてまいりたいと思います。

(英語の調査員代表者 檜山校長入室)

- 小田会長
それでは、英語の調査代表から調査・研究について報告をお願いします。

(調査代表説明)

- 小田会長
ありがとうございました。ただいまの報告の内容で、何かご質問等はございますか。

- 小田会長
調査・研究の報告をありがとうございました。

(調査代表退室)

- 小田会長
それでは、外国語科、英語の審議に入りたいと思います。ご意見いかがでしょうか。

- 沖野委員
まず、語順の誤りなど、正確に書くことに本市生徒の課題があることについて、様式2の記載から、東京書籍の自分たちでカードを並べ替えるというのは、生徒にとってとても分かりやすいと思いました。また、「主語」、「動詞」という言葉ではなく、1年生の最初に色と形、イラストを使っている点も分かりやすく工夫されていると感じました。

次に、基本本文の扱いですが、全ての発行者で基本本文は示してありますが、開隆堂出版と光村図書出版は、場面がマンガ形式で示してあることは、生徒がどういう場面でこの英語を使うのかを想像させることができると感じました。

外国語科として、コミュニケーションを行う目的や場面、状況のある言語活動を大切にしています。いつも授業をしている中で、単元の目標をどうするか、どういった目的や場面、状況にするのか、毎回最初から作るのは大変です。その部分が教科書で示されていると、教師になって1、2年目の先生にとっても分かりやすいと思います。そういった意味で、東京書籍はビデオレターのQRコードが付してあり、リアルで生徒にとっても分かりやすいと思います。三省堂、教育出版、光村図書出版も具体的で分かりやすいように記載されています。

東京書籍と開隆堂出版は、単元の始めに、終末のゴールが示してあります。これは、どういうことを勉強していくのかについて、生徒は想像しやすいし、教師もゴールを見据えて授業を組み立てることができます。

どの発行者もそれぞれに特徴があって、一長一短あるのかなと思います。私はこのように感じました。

- 小田会長
ありがとうございました。続いて、いかがでしょうか。

○ 東歸委員

私には、本市の外国語科の取組は詳しくはわかりませんが、中学校に入学した段階で、英語が苦手だという生徒がとて多いと感じています。そう考えると、小学校で学習してきたことをきちんとおさえてあげることが、今の生徒達には必要だと思います。

○ 沖野委員

授業をしていて、現在使用している教科書は、中学校入学初期に示されている内容が高度な箇所があると感じています。中学校1学年の最初の接続期に、復習をきちんとできるようになっていることは大切だと考えます。

○ 小田会長

保護者の方はいかがですか。こどもが英語を学習するときのことを考えて、何かご意見はありますか。

○ 船谷委員

東京書籍の語順カードは、とても良いと思いました。

○ 長谷川委員

中学校になっても、このような付録がついていることに驚きました。小学校ではなく、中学校でカードを使うのかと思って。

○ 小田会長

ご意見ありがとうございました。小学校の段階から英語で活動や学習をしてきて、英語が苦手になって中学校に上がってくることがあるという実態も出てきましたね。以前は、中学校入学時に、英語は「さあ、やるぞ」という雰囲気でしたが。実際に授業を行っている先生からは、この付録のカードがある方が良いという感想がありました。

○ 田中委員

ご意見が出ているように、よりふさわしい教科書は、私も東京書籍が良いと思います。その次が難しいですね。

○ 小田会長

山田委員はいかがですか。

○ 山田委員

どの教科書も特徴があって難しいですね。東京書籍は、一貫して分かりやすいし、聞き取りメモや日常と結びつける工夫など、生徒が主体的に学ぶことができると考えられます。教育出版は、非常によくできていると思いますが、高度な内容を扱っているのも、ハードルの高さから、小学校で英語が苦手になった生徒が、さらに嫌いになることもあるかもしれません。ただ、その辺りは考え方で、自分で一生懸命学習できる生徒や、一定程度力のある生徒をさらに伸ばしたいということであれば、教育出版が良いと思います。基本的な力を付けさせてあげたいということであれば東京書籍かなと思いますが、どちらが良いかは難しいですね。

- 小田会長
その他、ご意見ありますか。

- 佐々木（英）委員

本市の課題である「情報を正確に聞き取ること」や「自分の考えやその理由などを適切に表現すること」を考えると、語順カードだけでなく、各学年で設定されている「聞く」活動に加え、1学年では別に「Sounds and Letters」を5回設定していたり、思考力・判断力・表現力の育成のところで報告があった、コミュニケーションを行う目的や場面、状況について、QRコードを付しながら、具体的さを増していると思われる部分もあったりと、東京書籍の特徴は手厚いと考えます。中身を見たわけではないですが、動画だと、英語をただ聞くだけでなく、表情や動きも見えますよね。目的や場面、状況については、全部で4者ほど具体的だと報告を受けましたが、東京書籍がより生徒に分かりやすく示されていると感じました。

また、教育出版の特徴として挙げられていた、第2・3学年で、それぞれ基本文を英語と日本語で示しているため、生徒がその都度自分で学習を振り返ることができるので、この部分はとても大切だと思ったので、個人的には、本市の生徒にふさわしい教科書は、教育出版だと思います。

- 小田会長
ありがとうございます。その他ありませんか。

- 宮崎委員

自分の考えや意見を言ったり書いたりすることに課題があるということは、つながりのある文章を作れていないということだと考えます。そこへの手助けとなるのは思考ツールだと思います。英語だけでなく、各教科等で思考ツールを使っていくと、意見を伝えることができる生徒を育てることに繋がってくるはずです。そういった意味で、思考ツールを様々に示している、東京書籍、教育出版、光村図書出版が良いと思います。

- 小田会長
みなさんの意見を聞いていると、東京書籍がよりふさわしいというのは決まってきつつあるのかなと思っています。

（賛同の頷き）

- 小田会長
ふさわしいはいかがでしょうか。頂いたご意見から、今のところ教育出版ではないかと感じています。ご意見ごさいますか。

（賛同の頷き）

- 小田会長
よりふさわしいは東京書籍、ふさわしいは教育出版ということで良いでしょうか。反対の意見がある方はいらっしゃいませんか。

(異議なし)

○ 小田会長

それでは、よりふさわしいを東京書籍、ふさわしいを教育出版として答申にまとめていきます。その他、答申として付すべきことがありますか。

(異議なし)

○ 小田会長

それでは、いただいた意見を基に答申を作成して参りますが、その作成については会長、副会長に一任していただきたいと考えますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 小田会長

それでは、英語はこれで終了です。次に進めてまいりたいと思います。

(道徳の調査員代表者 松岡校長入室)

○ 小田会長

それでは、道徳の調査代表から調査・研究について報告をお願いします。

(調査代表説明)

○ 小田会長

ありがとうございました。ただいまの報告の内容で、何かご質問等はございますか。特にないでしょうか。

(一同頷く)

○ 小田会長

調査・研究の報告をありがとうございました。

(調査代表退室)

○ 小田会長

それでは、道徳の審議に入りたいと思います。ご意見いかがでしょうか。

○ 今野委員

担任をしていた時の思いも含めて伝えたいと思うのですが、道徳の実態としては、生徒たちや学校によっても違うと思います。「やった、次の時間道徳だ」というような生徒は少ないのではないかという実態があるところで、どのように1年間道徳を学んでいくのかという最初のオリエンテーションの部分については、どの出版社さんも工夫されていていいなと思いました。

生徒たちの中で、「これを1年間学んでいくんだ」という気持ちになれるのではないかと思います。

次に、授業する側の教員として、というところを見ると、自分の教科の授業づくりもありますし、その上で、さらに道徳の授業準備となると、やはり、先生の負担もあるのかなと。そういうところで、ここでは、分かりやすく工夫がされているかという点が、1つの選ぶ材料になると思います。

そういった意味では、日本文教出版の別冊ノートがあるというのはすごくいいなと思いましたし、葛藤教材も必ずあるので、東京書籍の心情円というのは、教材の工夫としてはすごく私自身としては魅力があると思いました。実際にどういう風に使うのだろうと、授業をやってみたい気持ちになりました。

教材1つにしても、ワークシートの工夫にしても、やはり使おうと思った時に準備するのも結構大変ですので、このような工夫があることで、やってみようと思う先生も多くなるのかなと思いました。

また、生徒たちが教科書を見ていく中で、やはり興味が出るもの、写真やイラストがたくさんあるというのも出版社によっても違ったので、それも1つあるのかなと思いました。

すべての出版社の最初の教材を見させてもらったのですが、芸能人やスポーツ選手を取り上げているものが結構多かったです。とても驚いたのが、東京書籍の3年生、いきなりyoutuberの話からスタートしているので、これが生徒たちにとってはずっと授業に入っていくこともあれば、教師としては様々な視点、デメリットの面なども含めて、両面から考えていきたいというところでもあります。

テレビで活躍するスポーツ選手の教材を使いたいな、生徒たちには今日ここを考えてほしいなという時に、生徒たちが今まさにテレビで見ているだろうなということもあるでしょうし、時期的に取り上げることが難しいことがあるかもしれません。教科書を色々見て、複雑だなというところも正直あります。

改めて本市の状況というところを見た時に、やはりいじめのことについては考えていかないといけないと思います。そういった中では、日本文教出版の、例えば、1年生については「怒りのコントロール」という内容が非常によいと思います。ケンカやトラブルが多い中で、実際にどのように感情をコントロールしていくのかというところも載っていますし、3年生についてはコミュニケーションで、アサーションの内容が入っています。

そういったところも、実際に道徳の授業で実施している学校が多いのではないと思うので、1つの教材として読み物で扱うことも一つですし、実際に身近なことで、疑似体験してみるというのも非常にいいなと思いました。

○ 小田会長

ありがとうございます。他にもご意見ございますか。

○ 佐々木(功)委員

道徳の授業をしている中でいつも思うのですが、生徒たちの発言を繋いでいったり、お互いの考え方を交流したりしていくと、50分の最後、終わり方が難しいというのがあります。別に何か1つに全部絞らなくてはいけないわけでもないですし、難しいと思いながらやっています。

その中で、日本文教出版の「視野を広げて」というページ等は、おそらく授業をすることが多い担任の先生方からすると、文章を読んで、多様な意見が出て、色々な考えが出て、これか

ら学級経営していく中で、とても使いやすいページだという印象があります。どの学年にもそれぞれ用意されていて、3年生には3年生、1年生には1年生と、それぞれの学年に合わせた、また、文章とリンクしているような内容が入っています。授業の流れも、何かあった時にまたここに立ち戻ってこられるなという気がするので、とても魅力的だなという風に思いました。この点をとっても、私が使うならこの教科書が非常に助かります。

○ 小田会長

ありがとうございました。

○ 佐藤副会長

「二通の手紙」という教材が、全ての出版社に掲載があるとのことですので、比較してはいかがでしょうか。

○ 小田会長

少し時間を取りますので、ご覧ください。

(比較中)

○ 小田会長

何か特徴の違いがありますか。

調査会ではどのような話が出ましたか。事務局の方でいかがでしょうか。

○ 松田指導主事

調査会では、同じ教材ですので文章自体に大きな違いはないのですが、何をどのように問うかという発問の仕方と、もう1つはその文章の前後に、学習の進め方や学び方、まとめ方というものが示してあるところに特徴があるということで調査をしていました。

例えば、日本文教出版だと、94ページから教材が始まって、100ページと101ページに、どのように学びを深めるかというヒントが載っておりますので、こういったページは生徒にとっても、授業者の先生にとっても大きい特徴ではないかという意見が出されてきました。

○ 佐藤副会長

若い先生で、あまり道德の授業で経験がない先生にとって切り口がよいというか、授業における話し合いのさせ方など、いろいろな方法が選べるメリットがあるというように思います。

○ 佐々木(英)委員

当初の生徒の課題を見た時に、今日的、現代的な課題に対処することのできる実効性のある力の育成に取り組むことが必要だということが書いています。このような実効性のある力を生徒たちが身につけようと、そういう力を身に付けさせようとした時に、いかに道德の授業でいろんなテーマについて考えていくか、どのように自分なりに様々な問題を解決しようとするかというところが、やはりとても大切だと思います。

そうすると、38ページにありますけれども、観点2と3があるのですが、その辺りはやはり特に大切なところだろうと思います。そうすると、東京書籍と日本文教出版というのは、様々な場面で生徒たちに発問を投げかけたり、考えたりするための手立て等を提供していま

す。やはり東京書籍と日本文教出版が、色々な角度から考えることができる、考えるための方法も示されているというのは、この2者だという風に思います。

特に日本文教出版は、その回数も多いですし、いじめに対するテーマに対することも手厚いと感じます。別冊ノートがあることも、生徒たちの学びやすさ、教師の教えやすさに繋がると思うので、日本文教出版の方が私の中ではよりふさわしい、東京書籍がふさわしいというように思いました。

○ 小田会長

ありがとうございます。

○ 田中委員

生徒にいろいろと考えさせる、そういう仕組みが1番よくできているのが日本文教出版、その次に東京書籍が丁寧だと考えているのですが、逆に丁寧すぎるのではないかというのがあります。そこに縛られてしまうといけない。ただ調査員の報告から考えると、日本文教出版、東京書籍の順に、これがよいのだろうと思います。

○ 小田会長

これまでのご意見まとめて考えます、日本文教出版がよりふさわしい、東京書籍がふさわしい教科書、としてまとめることができそうですが、よろしいでしょうか。

(一同頷く)

○ 小田会長

では、そのように答申をして参りたいと思います。

○ 小田会長

それでは、本日の審議の結果をまとめ、教育委員会に答申するという事でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 小田会長

賛同の声をいただいておりますが、広島市教科用図書採択審議会規則第6条に基づき、過半数で決することとなっておりますので、挙手をお願いします。

(賛成の挙手)

○ 小田会長

全員に賛成の挙手をいただきましたので、可決いたしました。

それでは、教育委員会から諮問された教科書の調査・研究について、慎重に審議を行った結果を先ほど可決いただいたように、答申します。以後は、会長の責任において、事務局との間で答申の事務手続きを行いたいと思いますが、会長に一任していただけますか。

(異議なし)

○ 小田会長

それでは、これで本日のすべての審議を終了します。

長時間にわたり、ありがとうございました。終わりを迎えることができました。たくさんのご意見、本当にありがとうございました。

○ 藤本指導主事

委員のみなさまありがとうございました。最後に指導第二課長より御挨拶をさせていただきます。

(課長挨拶 別紙)

○ 藤本指導主事

長時間にわたり、委員の皆様大変ありがとうございました。

最後に事務連絡いたします。

(事務連絡)

以上でございます。これで、令和6年度第4回広島市教科用図書採択審議会を閉会します。ありがとうございました。気を付けてお帰りください。